



NANZAN
UNIVERSITY

南山大学図書館報

ΔΥΝΑΜΙΣ

～デュナミス～

No.50 2006.10.1

CONTENTS

1 思い出・いま・これから

経済学部教授 図書館長：水谷重秋

2 流れる水ー館報50号に寄せてー

名誉教授：山本和義

3 南山大学図書館報

『ΔΥΝΑΜΙΣ（デュナミス）』命名の経緯

学務部長：関谷治代

4 年表：図書館報デュナミスから見る

南山大学図書館の歩み

編集委員

6 学部長おすすめの本

経営学部長：斎藤孝一

8 剣と魔法の国へようこそ

ーファンタジー文学入門ー

図書選定委員：紅露 剛

10 データベース新機能のご紹介

電子情報係：杉山麻里

12 図書館利用講習会のお知らせ

秋企画展のお知らせ

編集後記

思い出・いま・これから

水谷 重秋

南山大学が五軒家町から山里キャンパスに移ったのは、いまから42年前の1964年である。名古屋図書館も同年4月に完成した。キャンパスは、本部棟、大学会館、図書館、第一研究室棟、E棟（現在のG30教室）、F棟、G棟、H棟の8棟からなっていた。コンクリート打ちっばなしの建物群は、有名なアントニン・レーモンドによって設計されたもので、赤い外壁と調和して独特の美しい雰囲気を出していた。しかし、キャンパスの全貌は少々殺風景な様相を呈していたことも事実である。たとえば、いままでは名古屋キャンパスで最も快適な憩いの空間となっているパハスクエアとグリーンエリアであるが、当時は野球場であった。その状況をいま思い描くには相当の想像力が必要となるであろう。

1964年時点の図書館にはまだ書庫はなく、真新しい開架書棚と閲覧机が大理石の床の上に整然と並んでいた。コピー機などもまだなくて、雑誌の必要部分はずべて手で写し取ったものである。しかし、館内は静かで読書にはこの上もなくよい環境を提供してくれた。その後、書籍が急増するにつれ、1980年5月には早くも地下2階建ての書庫が増築されることになる。当初は開架式だったので、学生は不便を強いられた。現在は全館が開架式で、使い勝手は格段によくなっている。その割に、書庫で学生に出会う機会があまりないのはなぜだろう。

2005年度末現在の蔵書数は、名古屋図書館だけで書籍が617,143冊、逐次刊行物が14,381種類、視聴覚

資料が3,094点、電子ジャーナルの類が7,373タイトルである。他大学と比較しても決して引けを取らない。冊数だけではない。キリスト教関係の書物を中心とした稀覯本が多数所蔵されているのも、本学図書館の特色のひとつになっている。

本というと近年、紙製の本に加えてオンラインの本が増加した。しかし、この傾向が今後どのように推移するにしても、紙製の本がなくなることはないであろう。紙で造られた本には代替の利かない多くの利点があるからである。造本の美しさを観賞することも、本を手にとってパラパラと捲ることも楽しいものだ。言葉の検索などはともかく、読みたい箇所を見つけるのは紙に印刷された本でないと不可能だといってもよい。わたしなど、小説やエッセイをオンラインで読んでみようなどとは考えたこともない。雑誌論文をダウンロードしても、必ずそれを紙にコピーして読むことになる。そうしないと内容が頭に入らないからである。紙製の本に対する需要が減少することはないはずだ。

このように、新しい本が続々と生み出され、一方、古い本にはそれなりの価値があるので捨てられないとなると、蔵書数は今後とも増えていかざるをえない。書庫の増築から26年が経ったいま、これからの南山大学図書館のあるべき姿を真剣に考える時期にあるように思える。

（Shigeaki MIZUTANI：経済学部教授 図書館長）

流れる水 ―館報50号に寄せて―

山本 和義

1988年4月に創刊した館報『デュナミス』が、50号に至った。図書館長の任に就いて、まず手がけたのが館報の発刊だった私には、ことのほかうれしく思われる。

いま、その創刊号を手にとってみると、まだ「デュナミス」の名はなく、モノクロ・B5版のささやかなスタートだったが、志だけは大きかったことを思い出す。滔々と流れる大河だって、その源流はささやかなもの、もちろん現今の『デュナミス』を大河になぞらえるのは不適切だが、たゆみない流れが貯える水の量は思いのほか豊かなのだ。私には誇らしい思いさえある。

さて、創刊号の巻頭に、私は「新入生の皆さんへ」と題する拙文を寄せている。なぜ「新入生」に限っての呼びかけだったのか、往事渺茫、今では思い出せない。おそらく、これは年々歳々変わらなかったことだが、新入生を迎える昂揚した気分が、そうさせたのだろう。当時の図書館は、1980年の書庫を含めての大規模な増改築を機に、全面開架制から開架と書庫出納の併用制に移行していて、学生が直接書架から選ぶ図書は、収蔵図書の約4分の1にとどまり、4分の3はカード目録を検索して出納手続きをしなければならず、そのカード目録も整備されたものではなかったから、とても利用者にやさしい図書館とは言えなかった。もちろん、図書館が手をこまねいていたわけではなく、全蔵書のコンピュータによる検索を可能にすべく、入力作業に力を傾けつつあったのである。私は、拙文の中でそのことに触れた上で、中国北宋期の文人である蘇軾（東坡）の書簡に見えることわざ「水到って渠成る」を引いて、「流れる水が水路を作るように、皆さんの積極的な利用に励まされつつ、私たちは一日も早く成し遂げるために、膨大な仕事量にたじろぐことなく立ち向かって行くことをお約束する」と述べている。館報の創刊から18年余、その間の図書館の歩

みを振り返って、私は、その約束が空手形に終わらなかったことに、深く感謝している。

また、書庫出納方式では十全でない検索上の便宜を供しようと、排架の乱れなどを懸念する声に抗して、なお制限つきではあったが、学生の書庫への立ち入りを認めたのも、それからしばらくしてのこと、これまた水の流れを受けとめての措置だった。

今にして思えば、私の図書館長の任期・6年間は、南山大学図書館の転換期だったようだ。そうした中で、利用者と図書館との連帯の場のひとつが『デュナミス』だった。今も図書館の利用者である私は、『デュナミス』をいとおしみ、その刊行を待ちわびて読んでいます。

『デュナミス』よ、健やかなれ！

（Kazuyoshi YAMAMOTO：名誉教授）

南山大学 図書館報

No.1 1988.4

新入生の皆さんへ

図書館長 山本和義

図書館は新入生の皆さんを心から歓迎する。そして南山での大学生活を通じて自らの能力をたくましく磨き、ゆたかな教養を身に付けてくださるよう願っている。図書館はそうした活発な活動のために意欲的に尽くしていくであろう。

大学図書館の歴史は、「大学」とともに始まっている。そこには人間のすぐれた知性や感性によって生み出された膨大な量の書物が蓄積されたかたちで収蔵されており、大学における教育と研究には不可欠の存在なのである。本学の図書館には約40万冊の書籍と約15万冊の雑誌が収蔵されており、東海地区有数の大学図書館に成長している。そしてその量的な成長は今後いよいよ加速するものと見られる（ちなみに本図書館の収蔵能力は約100万冊である）。もちろん大学図書館は、情報化社会のうねりの中でますます収蔵量の拡大を迫られるはたして、どこまでも本学の教育・研究の理念を実現するために資する種々の図書が求められなければならない。

また図書館は形骸のみを目的とする施設ではない。それは、本学の教育と研究をよりすぐれたものとするべく機能することによって、はじめてその存在価値が認められるのである。常に皆さんの中に在学期間を通じて一度も図

書館を訪れることのない人があつたまい。その人にとって図書館はほとんど存在しないに等しいであろう。図書館は皆さんに対して何一つ「強制」することはない。第一「学食」に急ぐ学生を促して一冊の書物を読むのライブラリアンなどありはしないのだ。当然のことながら皆さんは「大学で学ぶ」ことを目的に本学に入学されたのである。ところで「大学で学ぶ」とは、いったいどういうことだろうか。講義に出ること、力の限りヘルメットをぶつけあうこと、下宿で夜を徹して勉強することなど、学びの場はいろいろに現出せようが、そこで得られるものは「学び」とする意志の強さに比例するであろう。「学び」とする意志がなければ、よく皆さんを図書館に導くのである。

本学の図書館は、昭和55年の大規模な増改築を機に、開架制から開架・書庫併用制に移行した。従って皆さんが直接書架から選ぶ図書は、収蔵図書の約4分の1であり、他の図書はカード目録・電子目録による検索などを経て出納手続きをしなければならぬ。また最近年の収蔵量についてはカード目録に入っていないなど、大きな不便をおかけするが、それらは収蔵量を増加させるためであり、やがては全蔵書の電算機による検索が可能にすべく図書館の力を傾けている現状をご理解いただきたい。

南山大学図書館報

『ΔΥNAMIS デュナミス』命名の経緯

関谷 治代

南山大学図書館報『デュナミス』は、2006年で第50号を数えます。今ではすっかり定着したその名前『デュナミス』命名の経緯は次のようなものでした。

当時、本を読まない学生の増加を背景に、多くの図書館が利用者に対するサービスの見直しを図っていました。従来のように利用者を待ち要望を受けてから対応するという受身的な姿勢ではいけない、積極的に利用者に働きかける必要があると考え始めたのです。その結果、システム利用講習会、ライブラリーツアー、企画展示会、資料紹介、図書館紀要や図書館報の発行等が計画されました。

このような状況で、1988年に南山大学図書館報が創刊されました。発行当初は、このように一般的な名前だったのです。固有の名前を付けようと編集委員会で検討したものの、なかなか良い案が浮かばない。そこで、図書館員に募集し投票で決定しようということになりました。応募は10件くらい、はっきりとは記憶していませんが、漢字、カタカナ、日本語、外国語等、さまざまな提案があったようです。投票の結果、相当数の得票で、第1位に『デュナミス』が選ばれました。『デュナミス』は、私が『ギリシア語入門(改訂版)』^{注)}の巻末にある語彙集から良い意味の言葉をいくつか選び、悩んだ末に1つだけ応募したものです。これは、「力」「可能性」を意味するギリシャ語で、馴染みの無い語感ですが、学生や図書館の「力」や「可能性」を感じさせる館報の名前として最適と思われました。



決定後、第8号から、ギリシャ文字を使った『ΔΥNAMIS (デュナミス)』というタイトルが表紙に印刷されました。英語を始め多くの言語の源であるギリシャ語のタイトルは、知の源である図書館を象徴しているように見えます。

同時に、タイトルを飾るイラストも無限の海をイメージさせるもので、可能性を具現化しているように思いました。

南山大学図書館報『ΔΥNAMIS (デュナミス)』は、名前のとおり力を発揮して、可能性を実現させながら50号を発行するまでになりました。今後も更に内容を充実させ、学習や研究の縁であり続けることを期待しています。

注) 田中美知太郎、松平千秋著、岩波全書[請求番号：891K/18/B ほか]

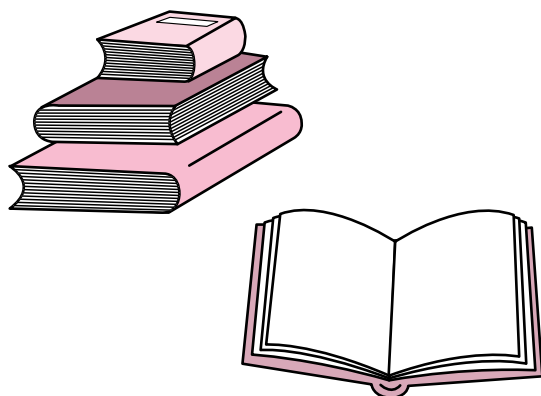
(Haruyo SEKIYA : 学務部長)

■ 年表 図書館報ΔΥNAMIS（デュナミス）から見る南山大学図書館の歩み

図書館報デュナミスのこれまでを振り返りつつ、図書館の歴史や広報活動の歩みをまとめてみました。

図書館報ΔΥNAMIS		南山大学図書館の歴史
内容については、先生方に執筆して頂いた記事を中心にピックアップ。		おもな出来事、サービスの変遷、企画展のテーマ（新：新入生歓迎企画展、秋：秋の企画展）、講演会等
	1949.4	南山大学創立（五軒家町）
	1954	延滞料徴収制度開始
	1964.4	南山大学五軒家町から山里町に移転
	1977.11	集中豪雨による図書館冠水
	1980.5	図書館増改築完了（現在の書庫の部分を増築）
	1982.4	「キリスト教コーナー」開設
	1983.3	「南山大学図書館紀要」創刊（～第8号、現在休刊）
	1983.4	「三宅文庫」創設
	1985.4	入退館システム設置
創刊号	1988.4	オンライン目録検索システム（GEMMA）サービス開始
No.2	1989.4	閲覧システム稼動（貸出・返却等の閲覧業務がコンピューター化）、入館ゲートをフリーゲートに変更
No.3	1989.10	
No.4	1990.1	
No.5	1990.4	
No.6	1990.7	
号外	1990.9	B2F書庫に電動式集密移動書架を設置
No.7	1990.10	
No.8	1991.1	
No.9	1991.4	
No.10	1991.7	
No.11	1991.10	「アウシュビッツ展—平和を、人間の尊厳を、求めて—」
No.12	1992.1	
No.13	1992.4	
	1992.5	夜間開館実施（水・土以外の授業日は20時まで開館）
No.14	1992.7	「聖書を中心としたキリスト教関係資料展」
No.15	1992.10	「地蔵写真展」「本学所蔵—キリスト教関係資料展」
No.16	1993.1	
No.17	1993.4	南山大学図書館「カトリック文庫」創設 新「南山大学の定期刊行物」「あなたは図書館通？」
No.18	1993.7	
No.19	1993.10	カトリック文庫通信「カトリコス」創刊（～現在） 秋「東南アジアの子供たち展」
	1993.11	秋「歌舞伎の歴史展」
No.20	1994.1	
No.21	1994.4	新「94生に贈る94冊の本」
No.22	1994.7	
No.23	1994.10	新オンライン目録システム（GEMMA-II）サービス開始
	1994.11	秋「GEMMA-II デビューキャンペーン」
No.24	1995.1	
No.25	1995.4	新「新入生のための参考図書展」
No.26	1995.7	
No.27	1995.10	秋「蝶の飛ぶ南山のもり—身近な緑を考え—」
No.28	1996.1	
No.29	1996.4	新「先生の青春グラフィティ」

	1996.7	デュナミスの資料紹介のコーナーを独立させ『資料紹介』として7月と1月の年2回発行（2005.1 No.19で発行停止） 新図書館システム（CILIUS）稼動 telnetによる蔵書目録検索（GEMMA-II）公開
No.30 「やはり古典がいい」 土田友章	1996.10	図書館Webページ開設 秋「和訳聖書展—南山大学カトリック文庫所蔵資料より—」
	1997.2	WWW版蔵書目録検索（GEMMA-II）公開
No.31 No.29まで遡ってインターネット版（html）公開開始 「現代学生気風」 江田信豊	1997.4	新「～いらっしやいませ南山大学へ～新入生のキミにごちそう おいしい100冊」
No.32 「感想」 桜井健吾	1997.10	秋「新聞広告にみる日本の社会史」
No.33 「貸本屋が僕の図書館だった」 堀部充、「新聞小説」 芝修身	1998.4	新「ビストロ南山大学らいぶらり：新入生のキミに贈る1998特選 メニュー」
No.34 「夢と現実：図書館はひらけこま」 浜名優美、「分かるデザイン、分からぬ デザイン」 細谷博	1998.10	秋「恋うた・恋文・恋ものがたり」
No.35 タイトルデザインを一新し、三色刷から二色刷に変更（～現在） 「図書館・本屋・大学教育」 林雅代、「冬日消閑」 櫻井進	1999.4	新「よく遊びよく学べ～新入生のあなたに、“知”へのヒント贈り ます～」
	1999.9	宗教関係資料特別展示
No.36 「本を買う苦労」 今泉邦子、「図書館あれこれ50年インタビュー（前編）」 年表付、「オランダ礼讃」 芝修身	1999.10	秋「南山大学50周年記念 南山大学の建築とA. レーモンド展」
No.37 「文献検索の話題」 鈴木敦夫、「大学入学の頃」 辻本裕成、「図書館あれ これ50年インタビュー（後編）」	2000.4	瀬戸キャンパス開設に伴い、瀬戸図書館が誕生 名古屋図書館・瀬戸図書館間の資料取り寄せサービス開始 延滞料を40年振りに値上げ（1日1冊につき10円→100円） 図書館の一般開放開始 新「完全大学生生活マニュアル！～大学入った、なにしよう？～」
No.38 「図書館での過ごし方」 薫祥哲	2000.10	CAN私立大学コンソーシアム締結（中部大学・愛知学院大学・南山 大学） 秋「Music from Christianity～教会音楽の2000年～」
	2000.11	特別講演「バッハの音楽と宗教：音楽を通じて信仰を伝える」
No.39 「ブラジル・ポルトガルの思い出」 丸山徹	2001.4	名古屋図書館書庫の全面開放 新「名古屋の地名にせまるみゃあ！瀬戸の地名もやろまいか！」
	2001.6	図書館講演会「電子化ジャーナルと電子出版」
No.40 「私的な比較大学図書館論」 岡田正則、「「良書」との出会い」 林尚志	2001.10	秋「明るい未来学～夢が現実になる日～」
	2001.11	図書館講演会「The Future of Reference Services: An American Perspective」
No.41 「書庫が好き」 井上淳	2002.4	貸出上限冊数拡大（学部学生5冊→10冊、学外者2冊→5冊） 瀬戸図書館の土曜日開館開始 CAN私立大学コンソーシアム相互利用開始 新「キリスト教の世界へ出かけよう！」
	2002.9	新オンライン目録検索システム（NeoCILIUS Knowledge OPAC）公開 「図書館研修生制度」開始
No.42 「経済不況は好機到来」 中矢俊博、「レファレンスとサポート—図書館と 司書課程」 川崎勝	2002.10	秋「Library Dictionary～図書館を知る～」 「問題集コーナー」設置
No.43 「冬の日の愉悅」 大森正樹、「ストーブと灯油缶の間」 中島靖次	2003.4	南山短期大学図書館所蔵資料の取り寄せを開始 新「世界の国からこんにちは!!」
No.44 「図書館の思い出」 唐澤幸雄	2003.10	秋「おいしい映画の楽しみかた」
No.45 「アレクサンドリアの図書館」 ハンス ユーゲン・マルクス、 「スポーツ科学」 池上久子	2004.4	開館時間延長（名古屋図書館22時、瀬戸図書館21時まで） 豊田工業大学図書館との相互利用開始 新「超究美大学生生活ノススメ」
No.46 「中国人はどのように本を読んだか」 中裕史、「ヴェルナー教授旧蔵 コレクションについて」 岡地稔、「万博：過去と未来」 小林傳司	2004.10	秋「The Scenes of "Sports" スポーツのある情景」
No.47 新コーナー「学部長おすすめの本」スタート 「高田三郎のこと」 西脇純、「学部長おすすめの本」（人文学部） 阿部泰明	2005.4	瀬戸図書館の日曜等開館を試行的に実施 大学コンソーシアムせと相互利用開始 新「これであなたも図書館通!？」
No.48 「図書館は「お宝の山」だ!!」 宮沢千尋、「学部長おすすめの本」 （経済学部） 花井敏、「法律講座ビデオライブラリーの紹介」 副田隆重	2005.10	秋「カトリック作曲家高田三郎とその世界」
No.49 No.49よりWebページ版はPDFで公開 「図書館に愛はあるか。あるいは、秘密」 松戸武彦、「アメリカでの在外 研究の経験から—法情報の収集について」 岡田悦典	2006.4	貸出条件の変更・拡大 授業時間の変更に伴う名古屋図書館開館時間の変更 新「知ってトクする図書館利用法」
No.50 50号記念号	2006.10	



歴代の図書館長

初 代：大沢 章（1949.6～1950.10） 図書館長事務取扱：エヴァ・M・ベリー（1951.9～1953.5）
第2代：テオドル・ヴァンザイル（1952.4～1963.7） 図書館長事務取扱：ト部小十郎（1962.7～1963.11） 図書館長事務取扱：宮内璋（1964.11～1966.3）
第3代：木村太郎（1966.4～1970.3）
第4代：大庭征露（1970.4～1971.3）
第5代：塩野谷九十九（1971.4～1972.3）
第6代：村松恒一郎（1972.4～1974.3）
第7代：山田隆治（1974.4～1976.3）
第8代：石黒 毅（1976.4～1981.6）
第9代：宮川茂夫（1981.6～1988.3）
第10代：山本和義（1988.4～1994.3）
第11代：美濃部重克（1994.4～1998.3）
第12代：浜名優美（1998.4～2002.3）
第13代：大森正樹（2002.4～2006.3）
第14代：水谷重秋（2006.4～）

学部長
おすすめの本

『マネー・ボール』

斎藤 孝一



マイケル・ルイス
『マネー・ボール』ランダムハウス講談社，2006年
[請求番号：783K/662]

みなさんは、次の式が何を示しているかご存知でしょうか。

得点数 = (安打数 + 四球数) × 塁打数 ÷ (打数 + 四球数)

この式は、ビル・ジェームズというアメリカ人が試行錯誤の末に作り出したメジャー・リーグのチームの得点数を予測する式です。この得点公式と名づけられた式では、四球や長打こそ野球において勝利するための重要な変数であり、一方、打率や盗塁数、犠打は勝利への貢献度が低いということを物語っています。それに反して、われわれ野球の素人はもちろんのこと、テレビやラジオ、新聞で見聞きする野球関係者の話はこれとは大きく異なっています。バントや盗塁は重要な得点のための手段であり、打率こそ打者あるいはチームの攻撃力を端的に示すバロメータであるということです。これは我々が野球を見たり語ったり

する場合の常識の一つといえると思います。この常識がもはや常識とはいえなくなりつつあること自体が驚きであるのですが、この本のおもしろいところは、野球の本であるにもかかわらず、野球をビジネスととらえて説明している点にあるでしょう。たとえば、ドラフト会議で指名する選手を決める場面で、「新製品の投入を議論する大企業や、マーケティング部の予算を削って研究開発部に回すことを検討中の会社でも、会議はおおいに紛糾するはずだ。」というように経営学のテキストのように説明しているのです。

この本は、われわれの常識とは異なった考え、しかも、「データに信頼を置けるところが大学生選手のありがたい点だ。高校生選手に比べて試合数のはるかに多く、対戦相手も充実している。サンプルの規模が十分大きいので、真の実力がより正確に表れる。」といったような統計的な裏付けを持った考えのもとにすばらしいチームを作り上げているオークランド・アスレックスのゼネラル・マネージャーであるビリー・ビーンの話です。彼の人生そのものが波乱万丈の物語であるのですが、しかしながら、この本は、単に通俗的な野球本の域をはるかに超えた知的好奇

心を刺激してやまないすばらしい本といえるでしょう。たとえば、「最低限度額の700万ドルよりいくら上積みして、その結果49勝よりいくつ勝ち星を増やせたのかを計算すれば、“投資収益率”をはじき出せる。」とか「体系的な科学分析を通じて、足の速さの“市場価値”を見きわめたり、中級のメジャー選手と上級の3A選手は何か本質的に違うのかどうかを検証したりした。」とか「どこで“資金”を調達し、誰に対して、どんなふうに使うか。」とか「もうひとつは、このドラフトルームで“期待値”と呼ばれている理由だ。」など、みなさんが経営学の諸領域におけるテキストで勉強するテクニカル・タームが随所に散りばめられているのですから。このような説明が野球の本の中に書かれていることは新鮮な驚きです。これは、この本の著者マイケル・ルイスの経歴と関係があると思われます。大いに興味を引かれる点でもあります。

さて、この本は経営学部のみなさんに何を学ぶべきかを暗に示唆しているといっても過言ではないと思われます。南山大学経営学部は、伝統的に組織・労務論、マーケティング、ファイナンス、会計学の4つをカリキュラムの柱に据えています。この本はこれら4つの領域がメジャー・リーグの球団経営というビジネスにおいても意思決定の重要な要素であることを示しています。さらにいえば、この本は、みなさんに、データ分析、確率論、回帰分析、定量分析、仮説検定などの統計的手法やコンピュータの知識の重要性を訴えているといえるでしょう。なにしろ「1980年代のはじめ、アメリカ株式市場は大きな転換期を迎えた。コンピュータの普及と知識の発展があいまって、先物取引市場や金融オプション市場にまったく新たな可能性が広がったからだ。先物取引やオプション取引は市場全体に占める割合こそわずかだが、かなり複雑な内容になってきたので、“金融派生商品（デリバティブ）”という新語でくくられるようになった。金融派生商品は、従来の株式や債券とは異なり、価値を明確に定量化することができる。」とか「高度な知識を持つ優秀なトレーダーが莫大な利益をつかんだことにより、ウォール街の文化は一変し、勘ではなく定量分析が重んじられるようになった。」と書いてあるのですから。

みなさんが、資金について知りたいのであれば、「キャッシュ・フロー会計」の本を読むとよいでしょう。また、金融派生商品をはじめとする株式や債券について知りたいと思えば、「ファイナンス」の本を読むとよいと思います。特に、「金融工学」と呼ばれる領域は、最も注目される領域でしょう。この他に、大学生であれば、「統計学」は避けて通れない領域といえるでしょう。

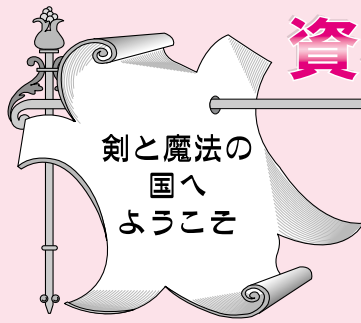
（Koichi SAITO：経営学部長）

● 著者紹介

ルイス, マイケル Lewis, Michael M.

作家。1960年にアメリカ合衆国ルイジアナ州ニューオーリンズで生まれる。プリンストン大学（美術史）卒業、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス経済学修士課程修了。美術商に1年間勤めた後、1985年ニューヨーク・ウォール街の証券会社ソロモン・ブラザーズに入社。3年間働いた体験をもとに、1990年『ライアーズ・ポーカー：ウォール街は巨大な幼稚園』を発表、全米でベストセラーになる。英国の週刊誌「ザ・スペクテイター」エディター、「ニューリパブリック」シニアエディターを務めた後、カリフォルニア大学バークレー校客員フェローに就任。他の作品に『マネー・カルチャー』『ニュー・ニュー・シング』がある。

典拠『現代外国人名録2004』〔請求番号：R/280/217/2004〕



資料紹介

ファンタジー文学入門

剣と魔法の力が支配する異世界の物語。そんなファンタジー文学の世界に魅せられ、夜な夜な読書に励む人も多いことでしょう。事実、本学図書館のブラウジングコーナーで、ハリーポッター・シリーズなどは常に予約待ちの人気ぶり。今回の資料紹介は、このファンタジー文学がテーマです。

● ファンタジー文学とは

空想や象徴、魔術などが重要な役割を果たす、空想物語（fantasy：ファンタジー）のこと。空想的要素の強い童話、民話、おとぎ話、児童文学などを含みます。隣接する分野にSF、怪奇・幻想文学などがあります。

● ファンタジー文学の歴史

ファンタジー文学の源流は、遠く神話伝説の世界にまで遡り、18世紀以降、欧米で児童文学の一分野として発展してきた経緯を持ちます（『不思議の国のアリス』、『真夏の夜の夢』、『ガリバー旅行記』など）。現代のファンタジー文学の流れを決定づけたのは、トールキンの『指輪物語』です。

● ファンタジー文学の分類

ハイ・ファンタジー（High Fantasy）…異世界ファンタジーとも。現実世界とは異なる異世界を設定し、そこで展開する物語。トールキンがこの分野を確立しました。代表的な作品：指輪物語、ゲド戦記、ナルニア国ものがたり、ハリーポッターなど

ロー・ファンタジー（Low Fantasy）…現実世界を主な舞台とし、そこに魔法や妖精など異質な存在（ファンタジー的な要素）が介入してくる物語。魔術や超自然的な要素が相対的に少ないファンタジー文学を多くの場合指します。代表的な作品：ドリトル先生シリーズ、メアリー・ポピンズ、星の王子さま、だれも知らない小さな国など

※ RPG（Role Playing Game）の古典『Wizardry』や萩原一至の漫画『BASTARD!!』では、ハイ・ファンタジーの世界観を色濃く反映した数々のシーンが展開されます（例：地下の迷宮で、味方の魔術師が放った呪文の連続攻撃に耐えたグレートデーモン（悪魔）が反撃してくる【Wizardry】、破壊神アンスラサクスに対し、主人公ダークシュナイダーが「唱える者たち」に呪文の四重詠唱をさせ、同時に複数の魔法攻撃を行う【BASTARD!!】など）。

文献解題

以下、本学図書館で所蔵しているファンタジー文学関連の資料をアトランダムに紹介します。※（ ）内は本学図書館の請求番号

● ハイ・ファンタジーの三大古典

まず、これらのうち、どれか1作を読んでみましょう。

- 指輪物語／J・R・R・トールキン [著] (B933K/2930/v.1～9, B933L/2930-1/v.1～6)
- ゲド戦記／ル＝グウィン作 (B933K/276/v.1～5, 276-A)
- ナルニア国ものがたり／C.S.ルイス著 (B933K/2802/v.1～7/A, B933L/2802/v.1～7)

● 入門、総合的ガイド

上記以外のファンタジー作品も読んでみたいと思った方には、以下のような案内書から他の作品へと進むことをお勧めします。

- 図説ファンタジー百科事典／デイヴィッド・プリングル編 (R/903/263, R/903L/263/A)
文学だけに留まらず、ファンタジーの世界を幅広く取り上げた総合的な専門事典。基本的なファンタジーのタイプや背景の解説のほか、映画、テレビ番組（日本未放映のもの多数）、ゲーム、雑誌に登場するファンタジー作品をも解説。用語集、文献目録、索引完備。見るだけでも楽しい。
- ファンタジーの冒険／小谷真理著 (081K/2447/v.174)
著者はSF・ファンタジー評論家。コンパクトにアップトゥデートな情報まで含まれており、ファンタジー文学の世界を概観できる。入門書として最適。巻末参考文献あり。
- 魔法ファンタジーの世界／脇明子著 (081K/2356-3/v.1020, 081L/2356-3/v.1020/A)
ハイ・ファンタジーのうち、特に魔法ファンタジーに焦点を絞って書かれた1冊。単なる現代の魔

法ファンタジーの分類・紹介に留まらず、遠く神話・伝説（例えばバイオウルフ）から現在に至る歴史的視点を持って書かれているのがひとつの特徴。入門書としてもファンタジー文学論としても読める。巻末にブックリストあり。

■ **英米児童文学史／瀬田貞二[ほか]著** (909K/236)

定評ある英米児童文学史のテキスト。17世紀以降の児童文学が対象。刊行後30年以上を経過しているが、ファンタジー文学の主要作品は網羅されており、児童文学研究の第一人者たちによる正鵠を得た記述は今なお読むに値する。

■ **はじめて学ぶ英米児童文学史／桂育子, 牟田おりえ編著** (902L/823/v.6, RF1/-016374~-016376)

1600年代以降、現代に至るまでの児童文学史のテキスト。地域的には、英米の他、カナダ・オーストラリア・ニュージーランドをカバー。各章ごとに、その章で取り扱う時代の時代思潮、児童文学概説、代表的作家と作品（テキストの抜粋と和訳あり）の3種類の記事から構成される。ファンタジー文学に関しては、特に1860年代以降を扱った第3章以降を参照のこと。巻末に参考文献、英米児童文学年表、索引あり。

● ファンタジー文学論

作品を読み進んで、もっと本格的にファンタジー文学に関する理解を深めたいと思った人に。

■ **ファンタジーの魔法空間／井辻朱美著** (902K/847)

現代の主要なファンタジー文学作品を題材に、ファンタジーを「家」、「旅」、「魔法」の3つの観点から分析・考察したもの。各章・節末および巻末に参考文献リストあり。著者は大学の教員で翻訳家兼ファンタジー作家。

■ **ファンタジーの系譜：妖精物語から夢想小説へ／杉山洋子著** (901K/677, 901K/677/A)

ファンタジー文学を広義に解釈し、ロマンス小説、メルヘン小説、ホーソン、フォスター、ヴァージニア・ウルフ、サリンジャーなども含めて論じているのが特徴。最後の章で現代の意味における（狭義の）ファンタジー文学を扱っている。

■ **秘密の花園：英米児童文学の黄金時代／ハンフリー・カーペンター[著]** (930K/1022)

著者は『オックスフォード世界児童文学百科』(R/909L/343/v.0-2)の共編者の一人。本書では、19世紀後半から20世紀初頭の英米児童文学の黄金時代におけるロー・ファンタジーの文学作品を中心に論じている。

■ **ファンタジーと歴史的危機：英国児童文学の黄金時代／安藤聡著** (909K/317)

英国児童文学の黄金時代のうち重要と思われる1860年代、1900年代、1950年代に焦点を当ててイギリスのロー・ファンタジー文学を論考した著作。巻末に読書案内と参考文献あり。

■ **ファンタジーの伝統／ロジャー・セール著** (909K/267)

シャルル・ペローからE.B. ホワイトに至るロー・ファンタジー文学の作家・作品に関する論考。著者は英文学者・文芸評論家。

■ **英米児童文学ガイド：作品と理論／日本イギリス児童文学会編** (909K/324)

前半にローファンタジーを中心に17の作品論、後半に児童文学研究の批評理論と方法に関する論考が収められている。タイトルに「ガイド」とあるが、内容はテキストを読み進んだ研究者向けのもの。記述は簡潔かつシャープ。本格的にファンタジー文学を研究してみたい人に。各章末と巻末に参考文献。

■ **幸福の約束：イギリス児童文学の伝統／フレッド・イングリシ[著]** (909K/228)

イギリスの児童文学を中心に、児童文学に現れる様々なテーマを論究している書。9章から11章がファンタジー文学に関連した内容を扱っている。歯ごたえのある児童文学評論を読みたい人に。

■ **ファンタジーとジェンダー／高橋準著** (902K/878)

ジェンダーの視点から内外のファンタジー文学を論じた資料。日本のファンタジー文学作品が他書よりも多く取り上げられている。各章末に詳細な作品注釈、巻末にファンタジー作品の解題あり。

■ **ファンタジーの世界／佐藤さとる著** (081K/2432/v.517)

『だれも知らない小さな国』の著者が実作家の視点からまとめたファンタジー文学・児童文学論。

■ **ファンタジーの文法／ジャンニ・ロダーリ著** (909/101)

著者はイタリアの児童文学作家。ファンタジー文学の創作表現にまつわる多くの話題が実践的に述べられている。

(Go KORO：図書選定委員 紅露 剛)

データベース新機能のご紹介

① Other fulltext サービス

この頃データベースを検索すると ① Other fulltext マークがあることに気が付きでしょうか？

① Other fulltext は2006年4月より開始したサービスです。

ご紹介する前に、データベースを利用してこんなお悩み事はありませんか？

- ・ 抄録は見つかったけど全文はないか？
- ・ 全文は見つかったけど、冊子体は南山にあるか？
- ・ 全文でHTML形式は見つかったが、PDF形式ではないか？
- ・ 抄録しかないようだ。他大学の所蔵を見て複写依頼をしたい。
- ・ 全文が掲載されている雑誌の出版情報も知りたい。 etc.

これまでは何度も別のデータベースやOPAC、Webcat や Webcat Plus を検索しなければ得られなかった情報が、① Other fulltext サービスにより一元化されスムーズに検索できるようになりました。

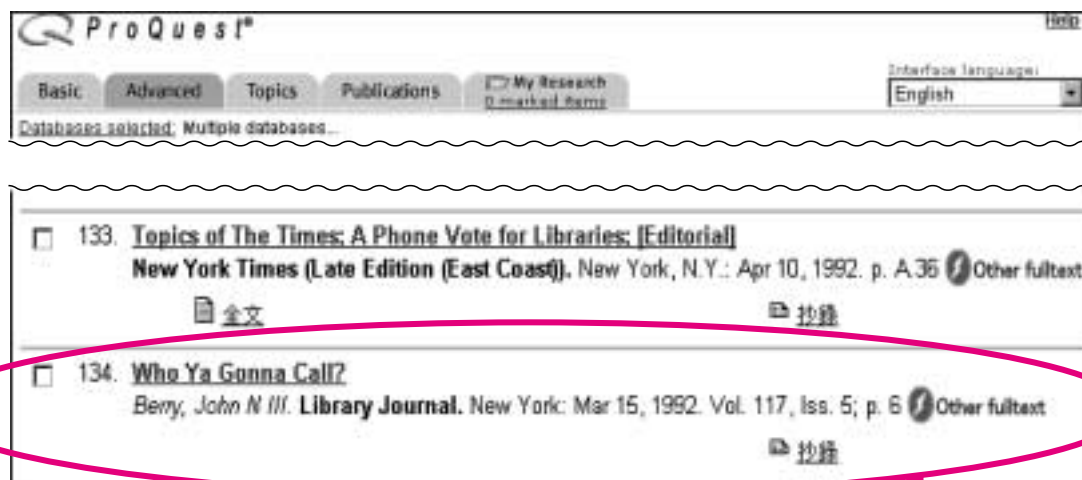
利用方法

- ① 図書館 Web ページ <http://www.nanzan-u.ac.jp/TOSHOKAN/> から「電子ジャーナル・データベース」→「名古屋図書館（または瀬戸図書館）」をクリックしてください。



このマークがあれば
① Other fulltext サービスが利用できます。

- ② マークのあるデータベースで検索し、一覧画面を表示します。



この論文に着目します。ここでは抄録しかみつかりませんでした。さらに ① Other fulltext をクリックします。

③ **Other fulltext** の情報が表示されます。

表示されている項目をクリックすると下記のように様々な情報を得ることができます。



EBSCOhost 検索結果で PDF ファイルが見つかりました。



OPAC 検索結果で雑誌 (冊子体) が見つかりました。



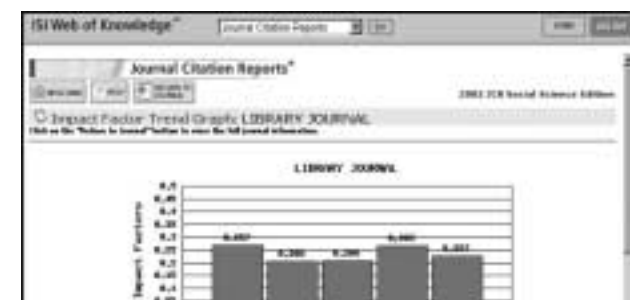
Webcat Plus 検索結果で他大学の所蔵館がわかりました。



Ulrichsweb.com 検索結果により、論文が掲載されている雑誌の書誌情報が得られました。



Journal Citation Reports の検索結果で、論文が掲載されている雑誌について過去の引用データが得られました。



ワンクリックで多くの情報が得られる **Other fulltext** サービスをぜひご活用ください。

(Mari SUGIYAMA : 電子情報係 杉山 麻里)

😊 お申し込み お待ちしております！ 秋の図書館利用講習会のお知らせ

今秋学期も、恒例の図書館利用講習会の申込を受け付けます。講習会は、下記期間中、みなさんのご要望を受けて開催します。どしどしお申込ください。

内容はレポートや卒論執筆に必要な学術論文の集め方や Web からの申込方法*、役立つデータベースの紹介・説明など、すぐに使える有益な情報満載です。さらに、個人やグループの申込ではオンデマンドにご希望に沿う内容で行います。卒論執筆にラストスパートをかけているみなさんもぜひどうぞ！（* Web からの申込は教職員・大学院生・学部4年生限定です）

開催期間 10月2日～11月30日の月から金

所要時間 ■ 個人・グループ：60分 * 卒論執筆用も含みます
■ ゼミ・授業単位：90分

申込先 受講を希望するキャンパスの図書館レファレンス・カウンター

※先着順です。人数、内容、時間などご相談に応じます。

※詳細は各図書館レファレンス・カウンターまでお尋ねください。

南山大学図書館 秋の企画展

『秋の夜長におススメの本』

瀬戸図書館

期間 2006年10月16日(月)～2006年10月22日(日)

場所 瀬戸図書館 ブラウジングコーナー 横

名古屋図書館

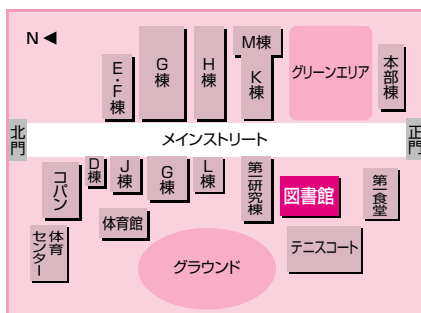
期間 2006年10月24日(火)～2006年11月1日(水)

場所 名古屋図書館 1階ブラウジングコーナー

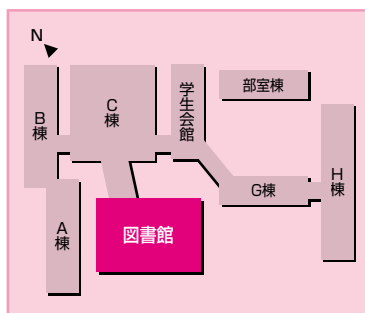
虫の音を聞きながらあなたも読書を楽しんでみませんか？

《編集後記》

50号記念号はいかがでしたか？ 編集委員一同、皆様をサポートできるような館報をめざします。（山）



<名古屋キャンパス>



<瀬戸キャンパス>

南山大学図書館報 デュナミス No.50

2006.10.1 発行

http://www.nanzan-u.ac.jp/TOSHOKAN/
発行：南山大学図書館 広報委員会
編集委員：岩田、山田、夏目
印刷：一誠社

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
Tel: 052(832)3707/Fax: 052(833)6986
図書館Webページでもご覧いただけます。